

授業概要

私たちは社会という場や関係を生きているが、必ずしもその実態を把握しているわけではない。時には根拠のないイメージや思いこみ、また流布された虚像などを事実と取り違えてしまっていることもよく散見する。自らが生きる場や関係が、実態としてどうなっているのか、それを確認するために有効なのが社会調査である。社会調査とは関係構造としての社会を明らかにすることが第一義だが、それに終始するばかりではない。自らの問題意識に根ざした調査は、調査する側の認識を新たにし、一人ひとりが生きる現実を拓いていく可能性を秘めた創造的な営みでもある。本講義においては以上を主なテーマとして社会調査の概略を学習する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	社会調査とは何か
第3回	社会調査の実例（歴史と現状）
第4回	何を明らかにしたいのか—目的と方法
第5回	基礎資料の収集
第6回	調査の設計 1—テーマと変数(独立変数、従属変数)
第7回	調査の設計 2—仮説の立て方
第8回	調査票の作成とサンプリング
第9回	実地調査のために—現地との連携、ラポール
第10回	分析と報告
第11回	量的調査の限界と質的調査の意義
第12回	フィールドワーク
第13回	聞き取り調査、参与・非参与観察
第14回	調査結果の取りまとめ
第15回	社会調査という権力—社会調査倫理綱領
第16回	調査プランの提出

到達目標

疑問を持ち、それを調べ、自分なりの答えを出すという、今後の社会においては必須となる素養を養成する。様々な調査手法や知識も重要だが、それを使いこなすための最も重要な資質として、自身の問題意識を形として提示し、他者と共有できるようになるというスキルを身につけることを目指す。

履修上の注意

この科目は社会調査の基礎を重点的に扱うため、実際の社会調査をするためには他の関連科目を受講する必要がある。また、毎回の講義は必要最低限の知識を凝集しており、それを自分なりに主体的に展開しておくことが求められる。講義内容を消極的に「受ける」のではなく、積極的に「考える」ことを求める。

なお、毎回の講義を受けて提出するリアクション・ペーパーは、内容が伴っていない場合採点対象外とする。

予習・復習

発展課題において、こちらが指定する事件報道等にアクセスし、出典明示の上で事件の概略を纏め、それについての自身の見解を根拠に基づいてまとめることを課す。特に、調査結果報道には優先して目を通しておくこと。思い込みによる単なる感想は評価対象外とする。

評価方法

調査プラン作成（レポート点として読み替え）60%、平常点（毎回のリアクション・ペーパー、及び発展課題）40%。リアクション・ペーパーは内容によって平常点に加算。出席点はつけないので、講義内容に関係ない内容を記してもカウントしない。RP未提出が講義日程の1/3以上で単位取得不可。遅刻3回で欠席1回と換算。

テキスト

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。